

発 言 通 告 書 要 旨 （ 1 枚目／全 4 枚）

氏 名 荒谷 啓一

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1			令和8年度予算における「不断の事業見直し」について さきの6月定例会では、6月補正予算における「不断の事業見直し」についての質問に対し、わずか3件だけが主な事業として例示され、質問の意図が十分に伝わっていなかったと認識する。 再質問に対し、「様々な理由で事業の廃止等があるので、財政上の理由から廃止等になったものを挙げた」とのことだったが、通告ではその理由については限定していない。また、「加賀温泉郷寛平ナイトマラソンの見送りは、財政上の理由ではないので挙げていない」とのことだったが、経緯や様々な背景により今年度は見送り、新たなイベントの在り方を検討しているという説明で、これは「不断の事業見直し」の典型的な例だと思う。「もてなしガーデナー（ガーデンシティ構想推進事業）」の減額についても、一定の成果を達成したということを加賀市ホームページで周知していながら、再質問するまで出されなかった。一方的に財政上の理由に限定し、これらの分かりやすい事業を挙げないのは、本件を追及的な質問として取っているのではないか。 私は、単に予算を削るのではなく、選択と集中のために「不断の事業見直し」を図ることは賛成であり、改革を批判するものではない。当初予算に未計上でも継続が必要な事業については、補正予算に計上したいとのことだったが、一方でどのような事業に対し、市長は見直しの判断をされたのか、市民や業界の方々の関心は、「関係するこれまでのあの事業に変化があるのか、ないのか」ということである。 これらの趣旨を踏まえ再度、廃止や今年度見送り、減額などと判断されたものにはどのような事業があるのか、その理由別に主な事業名（市民や業界対象の対外的な事業）について問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 （2枚目／全4枚）

氏 名 荒谷 啓一

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
2	(1)		法政大学と加賀高校と加賀市の包括連携協定について 取組の進捗状況について 令和6年、法政大学の「理系コンソーシアム」に加賀市が参加するとともに、地域課題の解決と人材育成に向けた包括連携協定を締結している。そして、令和7年6月には「法政大学理工学部と石川県立加賀高等学校と加賀市の包括連携協定」が締結され、包括連携協定を通して、教育分野における交流・連携を深めていくことで、高等教育及び大学教育の活性化、ひいては地域の活性化に向けた取組の推進を図るとしている。 これまで、大学教員による高校生への講義や大学と高校の情報交換は行われているが、大学生と高校生の交流が進んでいないとのことであり、具体的には、高校生による大学のゼミ聴講に期待が持たれている。 今年6月、加賀市の法政大学OBが大学行事で上京した際、本協定担当の理工学部教授から、「協定後の加賀市の進捗状況がなかなか見えない」と問われており、これまでの取組状況と今後の推進見込みについて問う。	
(2)			ロボレーブ大会について さきの6月定例会で、「不断の事業見直し」についての再質問の中で、「ロボレーブの大会自体は検討中だが、予算上はロボットプログラミング大会として当初予算に計上している。実行するかしないかは検討中」との答弁があった。 加賀高校は、これまでもロボレーブ大会への参加をはじめ、高校の魅力を高めるための取組を行っていることが、協定締結の背景として明記されており、包括連携協定において、ロボットプログラミング教育は重要な位置を占めている。生徒にとって、ロボレーブ大会への参加や成績向上は、法政大学への進学を目指す上でも大事な機会になっていると考える。 今後、大会の規模縮小や開催がなされないということになっても、「不断の事業見直し」であるなら理解する。しかし、その場合の協定との整合性、進学機会や推薦入試の評価への影響、代替策について、所見を問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全4枚)

氏 名 荒谷 啓一

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
3			小・中学校体育館の空調設備設置について 先月に、「猛暑が続く中、災害時の避難所となる石川県内公立小中学校体育館の空調設備の設置率が今年度末でも 11%。設置率 0% の金沢市はこの 9 月補正で、3 年後に 100% を目指して債務負担行為」などと大きく新聞報道があった。加えて、「石川県が激甚災害に指定されるのは過去 5 年で 13 回となり、全国で 2 番目に多い」との新聞報道もあった。 このような状況の中で、加賀市の小・中学校体育館の空調設備の設置については、今年度末で 6 中学校のうちの 3 校となり、残りの 3 校の整備が急務と考える。金沢市は P F I 方式などの手法を用い、3 年計画で全校に設置するとのことであり、その手法なども大いに参考にし、積極的に進めるべきと考える。 現在進められている加賀市ビジョン策定委員会の委員からは、「総花的なビジョンで加賀市の特徴がない」と聞く。地元教員出身・市長ならではの、学校施設の地域連携という大きな観点からの選択と集中に期待する。学校統廃合の背景を勘案しながら、小学校も含めた今後の設置計画について問う。	
4			児童発達支援センター「このゆびとーまれ山中」について 8 月の教育民生委員会で、「地域医療振興協会が自主事業で運営してきた児童発達支援センター『このゆびとーまれ山中』については、同協会が事業承継を見込む法人と協議を続けており、7 月末までの時限措置による運営を 9 月末まで延長している」との説明があった。 これまで紆余曲折があったが、結局 10 月からはどのようなのか、暫定運営はいつまで続くのか、6 月定例会での答弁の「支援が途切れないよう」について、どのように取り組んでいくのか。 あわせて、先般提出された「加賀市児童発達支援体制に関する答申書」との整合性、具体的には、令和 11 年度以降の新施設・新体制の本格稼働を目指していく上で、加賀市に児童発達支援センターとしては 1 つしかない「このゆびとーまれ山中」が、仮にその間に閉鎖になったとしても仕方ないという理解でよいか、所見を問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 （ 4 枚目／全 4 枚）

氏 名 荒谷 啓一

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
5			山中温泉ゆけむり健康村の電車「しらさぎ」について 休館中の山中温泉ゆけむり健康村で、道の駅として供用されている駐車場の一角に、旧北陸鉄道加南線の大聖寺・山中間で運行されていた、日本初のアルミ車体の電車「しらさぎ」が展示・保存されている。しかし、平成 17 年に大井川鉄道から、いわゆる里帰りして以来、近年は汚れや劣化が深刻で、歴史的鉄道遺産が悲惨な状況にある。 先月、当時の里帰りに際し、寄付などの支援に協力されたという福井県の方が現地を訪れ、あまりの状況に加賀市ホームページに改善に向けたご意見やアドバイスを寄せられ、所管の商工課は「早急に検討したい」と返信している。 山中温泉ゆけむり健康村については、私はこれまで「解体しての跡地活用」として訴えてきており、このままでは放置されたままか、鉄くずとして処分されることになるであろう。そこで、様々な課題はあるが、まず「しらさぎ」への思いや関心が高く、近年、市に無償譲渡を申し出ていたという 2 つの団体と早急に協議を始めてほしい。 まず、大聖寺・山中間を走っていた歴史的つながりで、NPO 法人歴町センター大聖寺が最優先と考える。次に、北陸の鉄道遺産の保存や継承・活用に取り組んでいる鉄道愛好家の組織で、これまでも「しらさぎ」の清掃など管理業務をボランティアで行っていただいている小松市の NPO 法人ヘリテージ・オブ・レイル北陸。どちらも今でも受取意欲があることは確認済みであり、結論的には早く対応できるところを優先に交渉を始めるべきと考えるが、所見を問う。	